

2026(令和8)年度

事業計画書



学校法人 貞静学園

【 はじめに 】

現代社会は、急速な技術革新とグローバル化が進む一方で、価値観の多様化やそれに伴う社会分断が顕著になっている。また、AI やデジタル技術は生活を便利にする一方、情報格差や倫理的な課題が生じている。更に、環境問題や人口構造の変化など、長期的な課題への対応が求められる時代となっている。

このような時代背景をもとに、急速な社会変化への適応力が、今後の私学経営においてこれまで以上に求められることとなる。特に、深刻化する少子化と生徒の多様化に伴う学習ニーズの変化に対応するため、「個別最適な学び」「協働的な学び」とこれらの学びを実現させる ICT の効果的な活用が重要となる。また、地域連携や産学連携を通じ、現代社会を主体的に生き抜く力を身に着ける教育への転換も求められている。

これらを踏まえ、本学園は建学の精神である、

「至誠」(心から誠実・真摯に人と向き合う)

「和敬」(人を敬い、人と協調していく)

「慈愛」(人やものを慈しみ愛する)

の理念が、これからの教育に求められる「主体的・対話的な深い学び」と密接に関わることを念頭に置き、『第Ⅴ期(2026～2030年度)学校法人貞静学園中期計画』に基づき、技術革新や社会環境の変化が著しい時代において、全教職員が一体となって、「教育環境の向上」「人的資源の管理」「財政基盤の確立」「学園ブランドの形成」を推進し、学生・生徒・園児に対して、高度化・複雑化する課題に対応できるグローバル人材を育成していくため、ここに2026(令和8)年度事業計画を策定する。

【 目次 】

I 学校法人の概要

1 設置する学校・学科等	2
2 各学校・学科等の収容定員、現員の状況	2
3 教職員数の概要等	3

II 中期経営戦略目標

1 第Ⅴ期(2026-2030年)貞静学園 中期目標	4
2 第Ⅴ期(2026-2030年)貞静学園 経営戦略目標	4

III 各部門の事業計画

1 法人事務局	5
2 貞静学園短期大学	9
3 貞静学園中学校・高等学校	11
4 貞静幼稚園	15

I 学校法人の概要

1 設置する学校・学科等

(1) 学校法人の設立年月日 1941(昭和16)年4月28日

(2) 設置する学校・学科等

学校名	開校年月日	学部・学科等
貞静学園短期大学	2009(平成21)年 4月1日	保育学科 ※2026年度募集停止 専攻科介護福祉専攻 ※2024年度募集停止
貞静学園高等学校	1948(昭和23)年 3月10日	全日制課程普通科
貞静学園中学校	1947(昭和22)年 4月1日	
貞静幼稚園	1955(昭和30)年 11月25日	

2 各学校・学科等の収容定員、現員の状況

2026年4月1日予定

(単位:人)

学校名	入学定員	収容定員	学生数・生徒数・園児数			
			1年次	2年次	3年次	計
貞静学園短期大学	(40)	(120)	(0)	(26)	—	(26)
保育学科	0	80	募集停止	26	—	26
専攻科 介護福祉専攻	40	40	募集停止	—	—	—
貞静学園高等学校	300	900	224	158	177	559
貞静学園中学校	50	150	39	22	21	82
貞静幼稚園	35	105	34	38	47	119
合 計	425	1,275	297	244	245	786

3 教職員数の概要等

学校別の教員数及び職員数

2026年4月1日予定

(単位:人)

区分		法人	短期大学	高等学校	中学校	幼稚園	計
教 員	本務	0	8	37	4	10	59
	兼務	0	5	32	1	1	39
職 員	本務	3	4	10	1	0	18
	兼務	1	3	18	0	4	26
学校計		4	20	97	6	15	142

II 中期経営戦略目標

1 第V期(2026-2030年)中期目標

学校法人貞静学園は2012年より中長期の事業目標である「貞静学園経営戦略基本計画」を策定し、3～5年周期で目標を定めてきた。

2026年から2030年までの5年間においては、本年度より新たに『学校法人貞静学園 第V期中期計画』を策定するとともに、『学園の永続的な経営基盤の確立』を目標に教育事業を推進、展開していく。

2 第V期(2026-2030年)経営戦略目標

第V期(2026-2030年)中期目標をもとに、当学園の中期計画において重要な要素となる「①財務」「②人材・組織・情報」「③ステークホルダー」「④教育内容／生徒・園児募集」の4つの視点から以下の経営戦略目標を立案し、各年度の法人及び各設置校の事業計画を策定する。

【① 財務視点からの経営戦略目標】	
①-1	資産の有効活用・収益化
①-2	収入源の多様化・安定化
①-3	コスト構造改革・効率化
①-4	財務健全性の確保
①-5	中長期的な経営体制・投資戦略

【② 人材・組織・情報の視点からの経営戦略目標】	
②-1	ガバナンス・組織体制の強化
②-2	人材育成・評価制度の整備
②-3	情報共有・ナレッジマネジメント
②-4	ICT・DX推進と情報管理
②-5	マネジメント能力・組織文化の醸成

【③ ステークホルダー視点からの経営戦略目標】	
③-1	他大学・教育機関との連携
③-2	産学連携・企業との協働
③-3	卒業生・同窓会との連携強化
③-4	地域との関係強化・信頼構築
③-5	生徒・保護者への教育価値提供

【④ 教育内容／生徒・園児募集の視点からの経営戦略目標】	
④-1	ビジョン・教育理念の明確化
④-2	ブランド戦略・差別化
④-3	時代に適応した生徒・園児募集活動の推進
④-4	教育内容・質の向上
④-5	進路・出口戦略
④-6	生徒・保護者満足度向上
④-7	マネジメント・評価体制

Ⅲ 各部門の事業計画

1 法人事務局

【事業の目標】

第Ⅴ期中期経営計画(2026～2030 年度)に基づき、「財務」「人材・組織・情報」「ステークホルダー」「ブランド・広報」の視点から、以下の目標を設定し、2026 年度の事業計画を策定する。

A 財務	(1) 資産の有効活用・収益化 (2) 収入源の多様化・安定化 (3) コスト構造の改革・効率化 (4) 財務健全性の確保 (5) 中長期的な経営体制・投資戦略
B 人材・組織・情報	(1) ガバナンス・組織体制の強化 (2) 人材育成・評価制度の整備 (3) 情報共有・ナレッジマネジメント (4) ICT・DX 推進と情報管理 (5) マネジメント能力・組織文化の醸成
C ステークホルダー	(1) 他大学・教育機関との連携 (2) 産学連携・企業との協働 (3) 卒業生・同窓会との連携強化 (4) 地域との関係強化・信頼構築
D ブランド・広報	(1) ビジョン・教育理念の明確化 (2) ブランド戦略・差別化 (3) マネジメント・評価体制

【事業の内容】

A 財務面

(1) 資産の有効活用・収益化

①施設活用における情報収集、方向性決定への取組

○2027 年からの短期大学校舎の活用について専門家及び関連企業の提案を集約し、理事会の方針決定期限を2026年9月に設定する。

○既存運動施設(小日向テニスコート、取手グラウンド)について売却を含めた方向性の検討。

②特定資産の有価証券化

○減価償却及び施設設備維持引当特定資産の有効的な運用に向けた情報収集を継続的に実施。安全性の高い国債による運用を中心に増収を図る。

(2) 収入源の多様化・安定化

①寄附金制度の構築

○2027 年度からの寄附金事業の開始を目指し、関連規程の整備を行う。併せて寄附目的、寄附対象事業の検討を進める。

②新規収益事業の検討

○付随事業を中心とした新たな収益獲得の検討を進める。

③インカムゲイン増収を目指す

○専門家からの情報収集により低リスクの金融商品の導入を見据え、資産運用規程の見直しを検討する。

(3) コスト構造の改革・効率化

① 人件費見直し方針策定

- 業務プロセスの効率化による時間外労働及び手当の削減に向けた検討を行う。
- モチベーション向上を目的とした職務給・役割給による報酬体系変更の検討を進め、2026 年度以降の導入を目指し、規程整備を行う。

② 事務業務の一元化検討、業務効率化施策の実施

- DX 化の推進及びペーパーレス化を継続し、業務効率及び生産性を向上させるシステムの導入を推進する。
- 短期大学閉学後の事務組織について、法人事務局、各校事務部間で重複する業務の一元化及び新部署設立、人員不足部署への充当等の施策の検討を進め、2027 年度以降の人的資源の最適化を目指し、過剰な人件費抑制の観点から実質的なコスト削減を図る。

(4) 財務健全性の確保

① 経常収支差額及び事業活動収支差額の 2030 年度黒字化達成に向けた取組

- 経営・事業計画、予算方針に基づいた予算編成の管理・徹底、支出削減を実行。
(2026 年度は資金収支差額▲100,000 千円未満(予備費計上前)を目標。)

② 人件比率の適正化

- 生徒数・園児数に応じた教職員数基準の検討及び方針を固める。

③ 翌年度繰越支払資金の 2029 年マイナス予測からの回避方策検討、実施

- 総資産利益率の改善のため、(1)～(4)の事業の遂行を徹底する。
- 中期計画の PDCA サイクルの年度毎実施を徹底させる。

(5) 中長期的な経営体制・投資戦略

① 運動施設の情報収集、資金計画策定

- 体育・運動教育の充実化を目的に、2027 年度以降に運動場導入の実現を目指し、関連企業から情報収集及び資金計画の検討を進める。

B 人材・組織・情報面

(1) ガバナンス・組織体制の強化

① 経営推進委員会の活性化

- 学園経営の方向性を検討する重要機関として位置付け、委員の拡充、審議事項の再点検を行い、運営規則の改正を実施する。

② ガバナンス強化に向けた規程見直し、法令遵守の取組

- 規程の見直し(法令改正に適時対応した整備)。
- 教員の勤務形態の再検討による最適化(変形労働時間制導入による就業規則の改定)を進める。
- 規程の理解を深めるための教職員対象説明会の実施(年 1～2 回)。
- 定期的な学園報(社内報)の発行の検討及び準備の実施。
- 管理体制の明確化及び点検の実施。
- 内部監査室の円滑な運営のための体制検討及び内部監査制度の点検と整備を行う。

③ 学園本部機能の強化、事務職員の適切な人材配置

- 人事課権限の明確化及び強化を進める。
- 経営企画部署の強化(特に人材面)を実施し、永続的な経営基盤の確立を目指す。
- 法人事務局及び各校事務部組織の実態検証を進め、2027 年度以降の事務組織一元化に向けた計画を策定する。

(2) 人材育成・評価制度の整備

① 人事評価制度の検討、構築(評価指標の明確化)

- 2027 年度からの事務職員の人事評価導入に向けた情報収集を行う。
- 評価指標及び制度設計の検討、評価者研修の実施に向けた取組を行う。
- 評価制度導入前の教職員サーベイの実施に向けた準備、システムの検討。

②キャリアパスの検討

- 役職に就くための基準、昇進ルートの再検討及び教職員への提示を実現させる。
- 昇進、職務に応じた待遇改善及び職務別給与表・手当の見直しを検討する。

③若手～中堅層の育成体系の整備

- 教育理念や経営戦略に沿った人材育成方針の明確化。
- 役職・職務ごとの必要スキルの整理及び研修プログラムの構築を行う。

④健康経営の推進

- 勤務実態把握・分析からワークライフバランスの充実を図るための業務環境改善、労働体系の見直し(変形労働時間制)の検討を行う。

(3) 情報共有・ナレッジマネジメント

①学園情報の全教職員への共有化

- 全教職員を対象とした学園の経営状況の報告会実施、または学園報による報告書の発行に向けた準備を進める。

②現場教職員の意見を学園経営に反映する体制の検討・整備

- 教職員が建設的な意見を述べられる体制の構築を行う。
- 教職員アンケートの定期的な実施、結果報告を共有できるシステムの検討。

③学園内の人事交流の促進、ナレッジ共有

- 法人事務局・短期大学・幼稚園・中学校高等学校教職員の交流推進として、各校種間の教育内容の見学・把握・意見交換ができる場の構築。

(4) ICT・DX 推進と情報管理

①DX 化による業務改革有

- 勤怠管理、理事会等の会議のDX化による効率化、業務負担軽減を目指し、システムの検討・導入を行う。
- 人事評価に関するDXの情報収集と導入検討、準備。

②情報管理の徹底

- ネットワーク・情報機器管理の専門部署を2027年に設立を目指す。
- 情報セキュリティ対策基準の策定(サイバー攻撃対策、守秘義務ルール周知)を進める。
- 情報システムにおける外部有識者との提携を視野に検討を行う。

(5) マネジメント能力・組織文化

①管理職者のマネジメント能力の向上

- 管理職対象のマネジメント研修の検討・推進。
- 管理職者評価アンケートの実施に向けた準備を進める。

②教職員のモチベーション向上の施策検討及び実現

- 業務目標の明確化、人事評価制度導入前に事務職員のキャリアパス提示を実現させる。
- 学内表彰制度の見直し・再構築を行い、教職員のモチベーション向上を目指す。

③組織文化醸成の取組

- 目標達成のため、部門間及び教職員間の立場を超えた建設的な意見交換ができる協働体制の構築・推進を図る。

④永続的な教職員組織の構築

- 役職及び組織体制の再点検と業務責任・権限の明確化を図る。

C ステークホルダー面

(1) 他大学・教育機関との連携の推進

①次世代に対応した教育推進、教育環境整備を実現するための連携 (目標:2030年までに20校)

- 現行の取引先を通じた教育連携先の紹介、開拓の実施。
- 連携に関わる契約管理の実施。
- 多分野の領域による大学、専門学校との提携を目指す。

- (2) 産官学(教育機関・民間企業・国や自治体)連携の推進
- ①次世代に対応した人材育成を実現するための連携
 - 自治体、取引先を通じた連携先の紹介、開拓の実施。
 - 連携に関わる契約管理の実施。
 - 企業の教育 CSR 活動の積極的な受け入れ。
- (3) 卒業生・同窓会との連携強化
- ①学園創立 100 周年事業プロジェクトチームの設立
 - 2027 年度に 100 周年事業準備委員会の発足に向けたプロジェクトチームメンバーを選定する。
 - 記念事業の検討及び記念事業実施における寄附金制度の検討を進める。
 - プロジェクトチーム運営における卒業生・同窓会との連携強化を図る。
 - ②短期大学卒業生の証明書発行及び就職支援窓口設置の検討・運用
 - 法人事務局内の部署として設置、永続的な支援体制の構築、運用に向けた検討準備を進める。
- (4) 地域との関係強化・信頼構築
- ①経営報告の可視化による信頼性向上
 - 法人サイトの充実化と継続的な情報発信の体制を整備する。
 - ②地域貢献・交流機会の推進
 - 学園施設を活用した地域貢献活動の検討を進める。

D ブランド・広報面

- (1) ビジョン・教育理念の明確化
- ①教育ビジョンの明確化に向けたサポート、各校への提案
 - 各学校の実態把握、入学生・入園児の志望動機分析のサポートを実施。
 - 市場動向を分析し、現代のニーズを見極めた教育ビジョンの検証を行い、学校経営に反映させる。
 - 未来社会ニーズを捉えたグローバル人材育成のための教育実現に向けた経営的なアプローチからのサポートを実施する。
- (2) ブランド戦略・差別化
- ①他校との明確な差別化による学園ブランドの構築
 - 学園としての人的・物的資源の独自性を強化させる方針と取組の検討。
 - SSR(学園の社会的責任)の取組推進によるブランド構築を行う。
 - ・環境問題への取組
 - ・労働環境の改善
 - ・再生可能エネルギーの利用推進
 - ・省エネに向けた施設設備導入推進
 - ②広報媒体の一元化、学園全体で統一したスクールカラーの設定
 - 2027 年度からの実現に向けた準備(仕様書の検討)を進める。
 - 各学校間との調整、広報媒体制作業者の選定作業の実施。
 - ③Web サイト等の外部情報発信強化
- (3) マネジメント・評価体制
- ①PDCA サイクルの可視化と公表
 - 学園ブランド定着を目的とした年間事業報告書の様式(学園全体)の検討及び整備を行う。
 - 学園が行った自己評価に対する学校関係者評価の体制構築を行う。

2 貞静学園短期大学

【事業の目標】

- (1) 学生指導・支援体制の強化
- (2) 教育活動並びにFSD活動による教員と事務職員との連携強化／教員の教育力、事務職員の業務能力の向上
- (3) 同窓会組織の確立・強化と卒後教育の実施
- (4) 官学連携、地域貢献、公開講座の充実
- (5) 保育者養成強化に向けた協力体制の構築とホームページ等による情報発信の強化
- (6) グローバル化に向けた国際交流関係事業の継続
- (7) 緊急時・災害時への対策と施設設備の維持管理および整備
- (8) 教育活動終了及び閉学に向けた対応

【事業の内容】

(1) 学生指導・支援体制の強化

※到達目標:2種類の免許・資格取得率の維持向上、修業年限以内で全員卒業を目指す

- ①「アセスメントテスト」(基礎力リサーチ)を実施し、学生の基礎学力と成長度を把握
- ②学生個々人の適正や能力に応じた個別支援を強化
- ③教育実習、保育実習の個別的な支援体制を強化し、実習科目の単位修得ができるよう支援
- ④学生のボランティア活動を充実させるための支援体制強化

(2) 教育活動ならびにFSD活動による教員と事務職員との連携強化／教員の教育力、事務職員の業務能力の向上

※到達目標:FSD活動の充実による教職員・学生満足度(授業評価アンケート・事務部アンケート等)の向上

- ①自己点検・評価活動の継続と種々研修への積極的参加
- ②SD活動の活性化(事務職員の専門性の向上)
- ③教員の外部資金獲得による研究活動の活性化
- ④FD活動の活性化(教員の授業研究及び教育力の向上)
- ⑤本学独自のFSD活動のため、教職員合同研修会を実施

(3) 同窓会組織の確立・強化と卒後教育の実施

※到達目標:独自に運営を持続できる同窓会組織を確立するための基盤を形成する

- ①同窓会会則の見直し
- ②持続可能な同窓会組織の再構築
- ③同窓会誌の発行
- ④卒後教育の展開を図るための戦略の検討(リカレント教育)
- ⑤卒後教育のために同窓会と連携を図る

(4) 官学連携、地域貢献、公開講座の充実

※到達目標:保育学科の特性を生かし、他大学との差別化を図った地域貢献を実施

- ①官学連携の継続実施
 - 文京区との連携事業として「文京区子育てサポーター認定制度のための子育て支援員基本研修」を4回開催(開発費・企画費・教材費等獲得)。
 - 文京区との「災害時における母子救護所の開設に関する協定書」に基づき、物資の備蓄場所や避難所として施設提供。
 - 文京アカデミア講座の実施(夏休み子どもアカデミア講座、アカデミア講座、ハイスクールアカデミアの実施)。
- ②地域貢献事業の拡大
 - 地域のお祭り、大塚警察署活動等への積極的なボランティア参加。

- 東京都、文京区等が開催するイベントへのボランティア参加。
- 体育館・教室等の貸出。
- ③各種公開講座の開講(本学主催)
 - 各種公開講座の継続実施(フラダンス、生け花、運動遊び)。
 - 新規講座の実施。

- (5) 保育者養成強化に向けた協力体制の構築とホームページ等による情報発信の強化
 - ※到達目標:保育者志望を増加させるための取組と魅力的な情報の発信を強化・継続する
 - ①保育者養成を支えるため、養成校同士の協力体制を構築
 - ②高校内ガイダンス等での説明や模擬授業等の実施
 - ③ホームページ等を有効活用した情報発信
 - 大学の様子を定期的に更新。
 - 在学生、保護者、卒業生、同窓会、就職先、実習先等への情報発信。
 - 公開講座等の募集や活動状況の報告。
 - 保育・幼児教育の魅力発信。
 - 必要な情報公開。

- (6) グローバル化に向けた国際交流関係事業の継続
 - ※到達目標:オーストラリア短期留学が実施できる履修者数(10名以上)を確保する
 - ①オーストラリア、ブリスベンにあるグリフィス大学への短期留学を実施
 - ②個別留学の案内やお知らせ等を学生へ周知

- (7) 緊急時・災害時への対策と施設設備の維持管理および整備
 - ※到達目標:感染症対策の継続、災害への備え。大学施設設備の整備
 - ①防災備蓄品の点検
 - ②施設設備の維持管理および整備

- (8) 教育活動終了及び閉学に向けた対応
 - ※到達目標:教育活動終了を念頭に滞りなく、必要な業務を引き継ぐ
 - ①専門学校時代から短大までの保存資料を整理し、保管体制を整える
 - ②記念誌作成や記念式典実施の検討を進める

3 貞静学園中学校・高等学校

【事業の目標】

- (1) 入学者増のための入試・広報活動の充実
- (2) 教学(学習指導・生徒指導)の充実
- (3) グローバル人材の育成
- (4) 進路指導の充実
- (5) 教員の資質の向上
- (6) 安全・安心の保証のある施設の管理(業務環境の整備も含む)、非常時対応備品等の整備

【事業の内容】

(1) 入学者増のための入試・広報活動の充実

※到達目標: 中学入学者 25 名、高校入学者 185 名(中高総募集人数 210 名)

<注力点>

- 2025 年度の募集活動の課題を分析し、本校の特色(「学力の伸びがある」「きめ細かな面倒見の良い指導体制」となる教育活動や成果を積極的にアピールする学校訪問・塾訪問、外部説明会、学校説明会など募集活動を計画・展開する。
- 本校の日々の教育活動、とりわけ特色ある活動について、HP・YouTube・Instagram・LINE などを活用して積極的に発信する。
- 学校説明会、受験イベントの来校率を上げるべく改善し、受験出願者増を目指す。そのために塾・中学校との連携、訪問活動の強化、日程の工夫を行い、塾訪問においては外部委託(エデュケーターサポートサービス)を継続利用する。
- 高校入試、中学入試において、受験者数を増やすための入試方法の見直しを行う。
- コース設定の在り方、コース別募集方法、学級編成等を精査し、改善を図る。

<注力項目>

- ①新コンセプトに基づく学校案内等広報媒体の作成
 - 本校の現状に見合ったコンテンツなどのアピールによる認知度向上。
 - 今後の学園発展ビジョンの提示による、学校に対する期待感の醸成。
- ②塾・中学校訪問の強化
 - 受験生や保護者に関わる「指導者」に働きかけることにより、「紹介」「お勧め」からの認知度向上。
 - 塾訪問は、効果が顕著のため引き続き広報活動の主軸として実施。
 - 公立中高一貫校対策塾の主催する模試の会場提供の促進。
- ③HP・YouTube・Instagram・LINE の活用
 - ホームページ、SNS、動画制作などで、受験生や保護者に向け視覚的なアピール。
 - 本校の特色をイメージしやすくするための内容充実。
- ④校内外の説明会、体験入学、受験相談会の充実
 - 外部相談会は、来校者増のための「受験生との最初の接点の場」との位置づけ。
 - 説明会や受験生イベント・個別相談で、本校の具体的なイメージ(できればよいイメージ)を与え、受験を前向きに考えてもらう流れの構築。
- ⑤入試要項の見直し・整理
 - 中学入試方法については、2 クラス編成の実現を目指し、常に検証及び見直し。

(2) 教学(学習指導・生徒指導)の充実

※到達目標:

- ①将来の目標を適切に設定し、それに即した進路を決定した生徒の割合 90%以上
- ②大学進学率 80%以上
- ③G-MARCH、国公立大、理系医療・看護系有名大、成成明学独国武、有名女子大、日東駒専、大東亜帝国の合格者増

④「学び直し」による基礎固め重視で検定合格を目指す

⑤「国際」を視野に「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の全体目標の設定とカリキュラムの開発

<注力点>

[教務的分野]

- 学習指導要領の趣旨に即した教育を展開する。
- 英語・数学を中心に学び直しの徹底による、基礎学力の定着、検定試験合格者の増加を図る。
- 外国語は、英検 2 級を目指す明確な指導目標を設定して、英語力の向上の指導体制を構築する。
- 学びの自立を図るための学力試験結果の積極的な活用を図る。
- 学びを中心とする英語教育の評価と課題に即した改善を行う。
- 学級の編成方法、コース制の在り方と入試方法、選択教科の設定の在り方の精査、改善を行う。

[進路指導的分野]

- 受験講座、各種講習等の体系化。(「(4) 進路指導の充実」参照)

[ICT 教育分野]

- iPad を活用し、スタディサプリや Teams などのアプリを利用して、生徒⇄生徒、生徒⇄教員の双方向授業(一人ひとりの学習活動の即時把握と個別指導)の一層の充実を図る。

<注力項目>

- ①グローバル人材の育成を図るための国語教育の充実を図る
- ②国際理解学習を核とした総合的な学習の時間、総合的な探究の時間のカリキュラムの構築
- ③生徒の国語力向上に向けての学園としての特色ある学習内容の構築
- ④高大連携校(拓殖大学・東京家政大学・こども教育宝仙大学との連携事業の開発と実践 幼教コース、特進コース)の実態に即した高大連携(大学提携)の推進
- ⑤数学・外国語の「学び直し」の徹底、授業・講座・補習による基礎学力の定着

(3) グローバル人材の育成

※到達目標:

- ①外国語(英語)4 技能の強化による英語の学力の向上
- ②英語による実践的なコミュニケーション能力の向上
- ③英検の合格者数増のためのカリキュラム開発 (中学卒業までに英検 3 級、高校卒業までに英検 2 級を目指す)
- ④ボランティア教育の充実
- ⑤傑出した能力を発揮させる部活動の環境整備

<注力点>

- 国籍や生活スタイル、宗教、価値観の多様性に留まらず、物事をどう見るか、どのように分析したり評価したりすることができるといふ視点を身につけて、グローバル人材の育成を図る。
- スタディサプリ English「英語 4 機能コース」の導入・活用及び JET による英会話指導により、英検の合格者数増を目指す。

<注力項目>

- ①JET プログラムを多様に活用した授業の充実
 - 日々の授業、英検対策、ESS 部の活動。
- ②英検上級クラス取得の促進
 - 朝学習での単語力向上、英会話の授業内での英検リスニング、ライティング対策、英検対策講座の実施。
- ③英語体験活動事業の充実
 - OTGG、ニュージーランド短期留学、オーストラリア留学の実施、グローバル人材の育成を目指した海外修学旅行実施の検討、グローバル人材の育成と外国語教育の関係の明確化。
- ④国語力の向上を目指す特色ある取組の開発
- ⑤社会に貢献できるボランティア精神の醸成 ボランティア内容の構築
- ⑥部活動において傑出した能力発揮が期待される生徒の活動機会を保障する環境整備

(4) 進路指導の充実

※到達目標:

- ①将来の姿(目的)を明確にし、目的に合わせてどこに進むのか(目標)を具体的にもち、一人一人の希望に即した進路

実現(進路決定率 90%以上)

②教育課程外の個別指導体系の構築 放課後校内補習の業者委託の具体的検討

<注力点>

- 授業外の進路にかかわる事業の体系化と充実を図る。
- 上級生による進学に向けた「体系的・実践的」及び「基礎的・汎用的」情報、社会人による高校段階での学びや進学に関連する情報を発信する。
- コース別ステップアップ、学校における基礎的、発展的な情報を提供する。
- 入試における進路情報の精査及び共有を図る。
- コースの特色に即したコース事業を充実させる。
- 各教科と連携し、大学進学に向けた指導体制を確立する。

<注力項目>

- ①進路講演会、社会人講話の充実
- ②志望理由書・小論文・面接対策講座等受験講座の体系化と充実
- ③総合的な学習の時間(国際理解学習)の充実と高大連携事業のもと、総合型選抜に対応できる生徒の探究力の向上
- ④コースの特色を生かした交流会の充実
- ⑤進路情報・受験情報の収集・分析・精査で価値ある情報の提供
- ⑥業者に委託しての放課後補習システム導入の検討

(5) 教員の資質の向上

※到達目標:教育の最新情報収集、教員研修に積極的に参加し、社会のニーズに応じた教員の資質の向上

<注力点>

- 「新学習指導要領」の趣旨やねらいの実現を図る授業力向上を目指した研修への参加。
- 大学入試変更、多様な大学入試に対応する研修への参加。
- 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間のカリキュラム開発のための研修参加。
- AIの活用に関わる研修への参加。

<注力項目>

- ①2027年度入学大学入試に対応する各種研修会・勉強会への参加奨励
- ②教員評価の実施を通じた授業力向上と職務能力の向上

(6) 安全・安心の保証のある施設の管理(業務環境の整備も含む)、非常時対応備品等の整備

※到達目標:

- ①管理業務予定等に沿って、定常的メンテナンス及び更新工事の実施、災害予防対応
- ②未来を見据えた安定的な施設・設備の整備
- ③防災備蓄品の充実
- ④優秀な教員の確保や維持に向けた取組を推進

<注力点>

- 災害時対応を強化する。
- 施設、設備の安全点検及び更新作業を行う。
- 職務の円滑な遂行に向けての環境の整備を行う。
- 生徒の安心・安全を保証するための教員研修を充実させる。
- 生徒の安全・安心を保証する施設、備品の改善を図る。
- 見通しを持った人事計画のもと優秀な教員を確保する。
- 内に開かれた学校体制、効率的な勤務環境を整備する。
- 私立中学高等学校協会との連携による勤務環境体制を整備する。

<注力項目>

- ①防災備蓄品と装備の充実(新入生用防災備蓄品の確保、備蓄品の補充・入れ替え管理)
- ②救急救命・防犯への対応力強化(救急救命講習会、防犯訓練)
- ③情報セキュリティ対策の強化
- ④定期的メンテナンス、防災等設備定期点検、建築設備等定期点検
- ⑤中・高校舎南側外壁工事、ロールバックチェアへの修繕、サーバーの更新、屋上フェンスかさ上げ改修

- ⑥生徒の安心・安全の保証を図るため、防災・救命救急等に対して、正しい知識とスキルを身につけることができるよう教員研修の充実を図る。(甲種防火管理講習、避難訓練・救命救急講習会)
- ⑦激甚災害等に必要な食料や備品を、700名(中高全校生徒と教職員)が3日間滞在できるよう準備する。(災害用備蓄品、防災用品、蓄電池等、非常用照明器具等)
- ⑧必要な教員数を見通した年度当初からの計画的な教員採用
 - 幅広い視点からの採用が必要との観点から、業者委託を通しての採用を想定した予算を配置する。
 - 規則にある採用年齢を超えた優秀な人材を登用可能とする環境の整備。
 - 常勤講師採用内定者の確実な確保のための任用前研修の整備や採用前に非常勤講師としての任用を行う。
- ⑨教職員への適切な心と体の健康管理 例)健康診断、ストレスチェックなど
- ⑩業務・作業の効率化のための学校備品の充実
 - ICT等の積極的活用による校務の効率化。例)office365、教務システム(Siems)
 - 円滑な校務遂行のための環境整備・校内備品の充実。例)RISO FW5230のフィニッシャーの新たな設置、備品管理の徹底
 - 印刷業務の環境維持。例)試験前等の定期メンテナンス
- ⑪私立中学高等学校協会第四支部幹事校(2023年度から)、副支部長校(2026年度)、支部長校(2027年度)を見通した情報共有・連携体制、校内組織体制の整備

4 貞静幼稚園

【事業の目標】

- (1) 園児募集活動のさらなる充実
- (2) 保育力・指導力の向上
- (3) 保育の充実と保育環境の整備
- (4) グローバル人材育成のための活動
- (5) 災害時の備えの強化

【事業の内容】

(1) 園児募集活動のさらなる充実

※到達目標:年少組入園者数 35 名【園則定員】 / 在籍園児数 4 月 105 名、3 月 120 名

- ①ホームページ「TEISEI つうしん」、公式インスタグラムの更新
- ②見学会・入園説明会の実施
 - 見学会:通常日実施 10 回、土曜日 2 回、夜間 1 回、夏休み 1 回
 - 説明会:解禁日(10 月 15 日)に 2 回以上の実施
- ③入園案内の作成
 - 保育への ICT 導入、スポーツ教室の導入、預かり保育の拡充などの新規事業を掲載し、幼稚園の魅力を伝える。
- ④地域施設での入園案内の頒布、ポスターの掲示
- ⑤転入園児の積極的な受け入れ

(2) 保育力・指導力の向上

※到達目標:園児の成長をより支援するために保育力・指導力を高める。

- ①教員研修会への積極的な参加(1 人 1 回以上)
- ②園内研修の充実(1 年 2 回以上)
- ③研究の奨励
 - 東京都私学財団の研究助成を活用した教員の研究活動を推進(1 名以上)。

(3) 保育の充実と保育環境の整備

※到達目標:保育環境の向上を目指し、保護者の満足度を高める。

- ①リトミックの実施
- ②体操教室の実施
- ③サッカー教室、バスケットボール教室、チアダンス教室、テニス教室の実施
- ④知育玩具の購入
- ⑤電子黒板、書画カメラ等の導入完了、運用の充実
 - すべての保育室での運用。
 - ホールでの運用。
- ⑥指導用 iPad の導入
 - 保育活動中の活用。
 - 園児管理のための活用。
- ⑦貞静学園高等学校、貞静学園短期大学との連携
 - 貞静学園高等学校
 - ・ボランティアの受け入れ
 - 貞静学園短期大学
 - ・教育実習の受け入れ
 - ・延長保育補助の依頼
 - ・園内研修講師の依頼

⑧地域との連携

- 大塚町町会との共催で行うもちつき大会。
- 大塚町町会もちつき大会への協力。

⑨預かり保育の拡充

- 早朝保育の実施。
- 延長保育の実施。
- 長期休業中の預かり保育日数・時間の拡大。
- 預かり保育の拡充に伴う備品の購入。

⑩とうきょうすくわくプログラムの取組

- 探究活動の取組。
- ナビゲーター園としての活動。
- 東京都庁戦略広報課ホームページ、インスタグラムへの掲載。

⑪課外活動の充実

- 英会話教室、茶道教室の実施。
- そろばん教室、体操クラブ、学研幼児教室、フットボール教室、ヴァイオリン教室の実施。

⑫学園創立 100 周年に向けて

(4) グローバル人材育成のための活動

※到達目標:以下の取組の確実な実施。

- ①茶道教室の実施
- ②キッズ英語の実施
- ③劇発表会における日本昔話を題材とした劇の取組
- ④日本語の「読む」「聞く」「話す」「書く」を取り入れた言語活動の実施

(5) 災害時の備えの強化

※到達目標:災害時に園児を安全に避難させる。また、非常食の補充を行う。

- ①避難訓練の充実
- ②安全点検の充実
- ③非常食の購入